

- 3:1 「人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである」ということばは真実です。
- 3:2 ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、
- 3:3 酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、
- 3:4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。
- 3:5 ——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう——
- 3:6 また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。
- 3:7 また、教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。そしりを受け、悪魔のわなに陥らないためです。

はじめに

今日の個所を学び始める前に、長老について知る必要があります。

長老に対する神の目的はなんでしょう。

その働きはなんでしょう。どんなことをする役目なのでしょう。

聖書における長老の歴史的背景はどうでしょう。

聖書の初めの 5 つの書を学ぶと、長老とは、神の選びの民イスラエルの指導的役割として任命された男性たちだったことがわかります。

イスラエルの民の長老については、旧約聖書で約 100 回言及があります。

イスラエルの民がエジプトで奴隷生活をしていた時でさえ、長老は民の指導的立場を取っていました。（出エジプト 3 : 16-18）

長老は、エジプトでの過越しを監督する責任がありました。（出エジプト 12 : 21）

モーセは、シナイ山で神とお会いした後、まず長老たちに話しました。（出エジプト 19 : 1-7）

イスラエルの民の 70 人の長老は、シナイ山で神と会いました。（出エジプト 24 : 9-11）

モーセが大切なことを伝える場には、長老たちが常にいました。

神ご自身も、70 人のイスラエルの長老たちを集めるようにとモーセにおっしゃいました。これは、人々を指導するモーセの手助けをする彼らに聖霊を注ぐためでした。

神は、モーセが一人でこの重荷を負うことはできないことをご存知でした。

イスラエルの民を導く重責は、一人の人には負いきれません。

民数記 11 : 11-17

11:11 モーセは【主】に申し上げた。「なぜ、あなたはしもべを苦しめられるのでしょうか。なぜ、私はあなたのご厚意をいただけないのでしょうか。なぜ、このすべての民の重荷を私に負わされるのでしょうか。」

11:12 私がこのすべての民をはらんだのでしょうか。それとも、私が彼らを生んだのでしょうか。それなのになぜ、あなたは私に、『うばが乳飲み子を抱きかかえるように、彼らをあなたの胸に抱き、わたしが彼らの先祖たちに誓った地に連れて行け』と言われるのでしょうか。

11:13 どこから私は肉を得て、この民全体に与えなければならないのでしょうか。彼らは私に泣き叫び、『私たちに肉を与えて食べさせてくれ』と言うのです。

11:14 私だけでは、この民全体を負うことはできません。私には重すぎます。

11:15 私にこんなしうちをなさるのなら、お願いです、どうか私を殺してください。これ以上、私を苦しみに合わせないでください。」

11:16 【主】はモーセに仰せられた。「イスラエルの長老たちのうちから、あなたがよく知っている民の長老で、そのつかさである者七十人をわたしのために集め、彼らを会見の天幕に連れて来て、そこであなたのそばに立たせよ。」

11:17 わたしは降りて行って、その所であなたと語り、あなたの上にある霊のいくらかを取って彼らの上に置こう。それで彼らも民の重荷をあなたとともに負い、あなたはただひとりで負うことがないようになろう。

長老たちには神の選ばれた指導者モーセを支える責任があったことがわかります。長老は、殺人事件の聴取や、家庭問題の審判を下す責任までありました。

新約時代に入ると、すべての教会が長老と呼ばれる男性たちによって運営されていたことがわかります。

使徒 14 : 23

14:23 また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。

彼らは、旧約時代の長老と似た役割がありましたが、そこに、これから挙げるような責任が加わりました。

1. 金銭を受け取り、管理した。 (使徒 11 : 29-30)
2. 教理に関わる問題を裁いた。 聖書の真理に関する問題を取り扱いました。 (使徒 15 : 1-24)
3. 人の相談に乗り、もめごとを解決した。 (使徒 21 : 18-25)
4. 偽りの教えから教会を守るために派遣された。 (使徒 20 : 20-28)
5. 一生懸命働き、困窮者を助けた。 (使徒 20 : 33-35)
6. 主な役割は、神のみことばを教え、多くの時間を祈りに割くこと。 (使徒 6 : 1-4)
7. 教会には必ず複数の長老がいた。 神は透明性と励ましのため、また長老が燃えつき症候群にならないためにも、これが最善と考えられました。

新約聖書には、長老委員会というものはありません。彼らは皆、上に挙げた働きを積極的になしていました。

長老に関するこれらの背景を念頭に、今日の聖書箇所テモテ第一 3 : 1-7 を学んでいきましょう。

まず、この箇所の文脈を理解する必要があります。

偽りの教師が現れました。おそらく、パウロが使徒 20 : 29-30 で警告した通り、エペソの教会内から現れたのでしょう。

この偽りの教えが原因で、ふたりのリーダーたちが不敬虔な行いをし、解任されました。(テモテ第一 1 : 18-20)

その結果、エペソの教会の評判に大きな傷がつけました。

地域の人々にも、教会で起こったことが知れ渡ったでしょう。

パウロはテモテに新たな指導者を任命することを求めました。成熟したクリスチャンで、敬虔な行いが明らかな人物です。

聖書は教会の指導者たちを長老と執事と呼びます。これらの指導者に関して、私たちが学ぶふたつの聖書箇所には、このような立場に立つために必要な資質が記されています。

そのような資質が備わっていれば、今後の長老または執事に問題が生じる可能性は低いでしょう。

ここで、重要なことを説明したいと思います。

OIC では、指導的立場の人々にも、実践的な奉仕者や賛美奉仕者、管理運営をする人にも、聖書に登場するこの単語を使っていません。

これらの聖書に登場する言葉を使うべきではありませんが、今後変わる可能性もあります。

その担当奉仕をどのような名称で呼んでいたとしても、必要とされる資質は同じように重要です。そして、OIC で奉仕するすべての人にこれらの資質をあてはめるべきです。

なぜこのようなことを話すかと言うと、今週と来週のメッセージは自分には関係ないと誰にも思っていたきたくないからです。
これらの資質は、OIC に適用されます。というのも、教会規則が次のように述べているからです。

「私たちは、旧約、新約聖書ともに、原文に誤りのない、神の靈感による神の言葉であり、人類の救いという神の御心の完全なる啓示であり、すべてのキリスト者の信仰とその人生に対して、神聖かつ最高権威を持つものである、と信じる。」

これは、長老と執事に関するふたつの個所が OIC の教会員全員に適用されるということです。

長老を指して、違う単語が使われていることも留意しておくべきです。
監督という単語が使われていることもあります。
このような単語は、「長老」という単語が語源になっていて、同じ人々を指します。

今日の個所は 3 つに分けてお話ししましょう。

1. 長老の任命 (3 : 1)
2. 長老の資質 1 (3 : 2-3)
3. 長老の資質 2 (3 : 4-7)

1. 長老の任命 (3 : 1)

a) これは大切な召しです。

「…ということばは真実 (まこと、信頼できる)」といった表現は、牧会者への手紙に特有のもので、この表現は、5 回登場しますが、どれも、とても大切な基本的真理を伝えるために用いられています。

フルタイムで職業として長老、牧師、教師になる人も、世間での仕事を続けながら余暇の時間をささげる長老も、召しは非常に大切です。

働きの有効性と教会の証は、たいていの場合、教会の指導者に左右されます。(ホセア 4 : 9)

長老に召されることは、重大な召しです。

b) これは制限付きの召しです。

新改訳には、「人がもし監督の職につきたいと思うなら、」とあります。新共同訳は「監督の職を求める人がいれば、」と語ります。

どちらもある意味正しいのですが、ギリシャ語の原語を理解すると、神がここで私たちに知ってほしいと望まれることをしっかり理解できるでしょう。

ひとつめのギリシャ語の単語は「orego」で、「自らを精いっぱい伸ばして手を差し伸べる」という意味です。この単語には、内面的な動機を示す意味は含まれていません。

次のギリシャ語の単語は「epithumeo」です。これは、「情け深い衝動」です。これは、内面的な願望であり、心からわき出る感情です。

このふたつの単語を合わせると、長老の立場に立つのに最適な人は、神から召されていると心に感じていて、通常自分ができること以上に自らを伸ばして手を差し伸べる覚悟のある人です。

神の召しは何よりも大切だと私は信じます。

これは、フルタイムで神に仕えるにしても、経費と教える費用のみをもらって一般信徒の長老として仕えるにしても、適用されます。

イエスは、自分を差し出す気持ちのある人を召されます。

聖霊は、私たちのすべき役割に必要な能力を与えてくださいます。初代教会の弟子たちを働きのために備えられたのと同じです。

c) **これは、責任のある、真摯に受け止めるべき価値ある召しです。**

ヘブル 13 : 17 には、教会の監督は大きな責任だとあります。長老は神から特にきびしいさばきを受けます。(ヤコブ 3 : 1)

長老の責任は、指導、教え、弟子訓練、人々の世話、病人のために祈ること、人々の模範となること、指導者を増やすことなどです。ですから、簡単に負うべき責任ではありません。

新改訳はこれを「素晴らしい仕事」と呼びます。これは素晴らしい仕事ですが、多くを要求される過酷な仕事であり、サタンや悪霊の攻撃の的となります。

時には、イエスに従っていると言う人たちからそのような攻撃がやってくる場合もあります。

テモテ第一 5 : 22

5:22 また、だれにでも軽々しく按手をしてはいけません。また、他人の罪にかかわりを持つてはいけません。自分を清く保ちなさい。

この警告は、長老や牧師として誰に按手を授けるか注意を払わなければならないというものです。

間違った人を選んでしまうと、その罪を自分も負うことになってしまいます。

これは非常に深刻です。

そういうわけで、初代教会は長老の按手を非常に重く考えていました。

使徒 13 : 1-3

13:1 さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。

13:2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。13:3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。

使徒 14 : 23

14:23 また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。

2. **長老の資質 1 (3 : 2-3)**

2-3 節には、教える能力ともてなすことを除いては、すべて道徳的な行動に関する資質が挙げられています。

a) **非難されるところがなく**

このギリシャ語の単語は、神のみことばに反することをしたと責められる可能性がない人を意味します。

ギリシャ語が実際に言っているのは、その人の人生に、目をくらましたり支配されたりするような罪があってはならないということです。

パウロは次に、他にも長老が支配されてはならないものを挙げます。

b) **一人の妻の夫であり**

これは、その人が既婚者か離婚歴があるかとは無関係です。これは性的な誘惑についてです。

他のどんな罪よりも、多くの牧師が性的な罪で働きを去っています。

ですから、この資質はもっとも重要です。

最近の有名な牧師の例では、アメリカのウィロークリーク教会の創立牧師、ビル・ハイベルズ師です。その疑惑が本当なら、その教会と団体にとって非常に残念なことです。ウィロークリーク教会の働きは、「求道者にやさしい教会」として始まりました。彼らの活動をすべて肯定はしませんが、米国と英国で大きな影響を及ぼした働きであることは確かです。

c) 節制し—これは、自制があるという意味です。

d) 慎み深く、品位があり

「慎み深く」という部分は、素面（しらふ）の状態であることを意味します。酒に酔っていたけれど、酒がすでに体外に出て素面になった状態を指します。つまり、しっかり分別がつくということです。

慎み深いとは、聖霊に支配されていることです。

エペソ 5:18 で、パウロは、「酒に酔ってはいけません。…御霊に満たされなさい。」と語ります。聖霊が行動を支配していれば、常に敬虔な行動が取れます。

e) よくもてなし、—ギリシャ語は、「見知らぬ人を愛する」という意味です。

ルカ 14:12-14

14:12 また、イエスは、自分を招いてくれた人にも、こう話された。「昼食や夕食のふるまいをするなら、友人、兄弟、親族、近所の金持ちなどを呼んではいけません。でないと、今度は彼らがあなたを招いて、お返しすることになるからです。 14:13 祝宴を催す場合には、むしろ、貧しい者、からだの不自由な者、足のなえた者、盲人たちを招きなさい。 14:14 その人たちはお返しのできないので、あなたは幸いです。義人の復活のときお返しを受けるからです。」

初代教会の牧師たちは、人々をもてなす準備をしていなくてはなりませんでした。

現代のようなホテルもなく、宿屋にはいろんな人が出入りしていて物を盗まれることがあったからです。

ですから、長老の自宅は、旅をするクリスチャン、特に働き人のためのホテルのような存在でした。

現代でも、長老や牧師が同じようなことをする必要があると思います。

今年の夏、私たち夫婦は、娘カリスと双子の孫を訪ねたとき、教会の長老宅に 8 日間お世話になりました。

これまでお世話になった長老のお宅で一番素敵なおもてなしをしてくださったと思います。

素敵な庭のあるお宅で、お風呂とトイレのある最高の客間に泊まらせてくださいました。また、私たち家族と一緒に移動できるようにと、7 人乗りの車も使わせてくださいました。

ある朝、レストランでの朝食にも連れて行ってくださいました。

この男性と奥さんは 70 歳くらいのご夫婦でしたが、おもてなしのすばらしい模範でした。

私たち夫婦もおもてなしのために家を提供したことが何度もありますが、たいへんなこともありました。

ですから、英国でのこの経験は私たちにとって二倍の祝福だと感じました。

とは言え、生駒のマッケンナホテルに皆さんいらっしゃいという意味ではありません。けれども、もしその必要があれば、歓迎します。

OIC の教会員の方で、私たちの自宅に泊まった方もいます。私たちも、喜んで 1~2 泊お助けします。

f) **教える能力があり-**

知識があることと、教える能力があることは違います。もちろん知識は必要ですが、誰もが理解できるように、わかりやすい方法でその知識を伝える能力があるということです。

私の教えもわかりやすいことを願います。皆さんに聖書の真理を理解していただきたいと思っているからです。

難しいことをわかりやすく伝える能力が大切です。

g) **酒飲みでなく**

この教えは、長老がワインをグラスに一杯も飲んではいけないとは言っていません。しかし、長老は公共の場ではアルコールを飲まないのがよいでしょう。誰かの気分を害する可能性が高く、それはよくないからです。

この時代、水はあまりきれいではなかったもので、殺菌の目的で水にワインを混ぜました。テモテは水にワインを混ぜるのを躊躇しましたが、胃が弱かったので、パウロは健康のためにそうするように教えました。

実際、少量の赤ワインは胃に良いことが立証されています。

テモテ第一 5 : 23

5:23 これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。

h) **暴力をふるわず**— これは、読んでそのままです。長老が暴力に頼ってはいけません。

i) **金銭に無欲で**

人のものを欲しがる食欲というのは、自分の持てないものを欲しがることです。これは、お金でも物でも何でもです。

j) **争わず**

ギリシャ語では、これは問題解決のために暴力に頼らない人を意味します。牧師が誰かを殴り倒したいと思っても、それは問題解決の方法ではありません。

3. **長老の資質 2 (4-7 節)**

この部分は、長老の家庭生活、霊的成熟度、および対外的評価に関する内容です。

a) **長老は家庭をよく治める人でなければならない。**

私が英国のふたつの教会で牧師に任命される前、教会の指導者と会衆から、私の 4 人の子どもたちに会いたいと言われました。

それは、子どもたちの素行を見て、私が家庭をよく治めているかどうかを知るためです。どちらの教会も、この個所に挙げられたすべての点において徹底的に調べました。

パウロは、家庭を治めるのは教会を治めるのと似ていると言います。

それは間違っていないです。子育ては、教会員の牧会のためにとってもよい訓練になります。

b) **長老は、信者になったばかりの人ではない。**

パウロは、新しい信徒が長老の責任を負うと、高慢が問題になると言います。

新しい信徒が長老の責任を持つと、高慢以外にもあらゆる問題がありますが、パウロはここで高慢を強調します。

聖書が記された時代、30 歳未満の人が長老となることは考えられなかったでしょう。

かつ、成熟したクリスチャンでなくてはなりませんでした。

c) **最後の資質は、教会外の人々にも評判の良い人であること。**

これは、現代では難しいでしょう。

教会の指導者が、牧師が聖書学校や神学校に行く前の職場の上司に連絡を取って、その牧師の職場での評判を聞こうとしたという話を聞いたことがあります。
これは注意が必要ですが、これも必要とされる資質のひとつです。もし私たちの言動について職場の人が不満を持っているなら、それは考慮すべき問題です。

現在の OIC において適用できることはなんでしょう。

1. すべての牧師と長老は、この個所に基づいた審査を通らなければならない。

教会や教会指導者がこの過程を踏んでいなければ、後々問題が起こるでしょう。
友人からの個人的な推薦があるだけでは十分ではありません。すべての人が正しく審査されるべきです。

神に召され、しっかり審査されているなら、牧師や長老に関して問題が起きる可能性は低いでしょう。

皆さんもご存知の通り、私が OIC の牧師として就任するまでに約 6 カ月かかりました。当時の教会役員は、私の資格や家族、推薦者などをしっかり調べたのですから、よくやってくれました。

2. できる限り、教会の牧師や長老はひとりで働くべきではない。複数の長老が必要である。

これについては、多くの研究がなされています。他の長老は、給与を受け取るスタッフである必要はありませんが、ふさわしい資格があり、同様に審査されなくてはなりません。
これは OIC にとっての課題です。けれども、牧師や長老を支える人を一人もしくは複数任命するのは不可能ではありません。

世界中の多くの教会、おもに長老派、会衆派、単立福音教会などでは、牧師以外に長老のチームがいます。

今日私たちが学んだ個所に基づいて長老が選出されているところでは、このシステムがうまく機能するようです。

長老たちはそれぞれ、教会で何らかの働きを担います。

教え、牧会、偽りの教えがないかの確認、病人訪問などですが、常にともに祈ります。

聖書の教えを実際の教会生活で実践するのは常に課題です。

けれども、これは大切な原理ですから、教会役員や教会員が真剣に考える必要があると私は思います。